

〔I〕 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。 1 13 の解答は解答欄にマークしなさい。

目が見えない人は、どのように世界を捉えているのだろうか。それは、視覚に大きく依存している人にとっては、絶望的な響きを持つとともに、誘惑的な問いでもあるようだ。古代ギリシャの時代から現代まで、シェイクスピアや谷崎潤一郎などによる文学のほか、映画やテレビドラマ、アニメなど、目が見えないことをメタファー^Aにさまざまな物語が描かれてきた。

では、目隠しをしたら、その世界が少しでも体験できるのだろうか。たとえば目隠しをして家の中を歩いてみる。最初は怖いという感情が支配するだろうが、少しずつ壁や柱を触って部屋の形や自分の位置を確認することができるようになるだろう。しかし、それだけで目の見えない人の世界を体験したと言えるのだろうか。

障害のある人となない人の違いを、特定の感覚の有無ではなく、拠り所とする感覚の違いとすると、「環世界」が異なると考えることができる。環世界とは、ドイツの生物学者、ヤーコプ・フオン・ユクスキエルが考えた概念で、生き物がそれぞれに固有の感覚をもって主体的に構築している世界のことを指す。よく例に挙げられるのは、ダニや犬だ。たとえば、マダニに視覚や聴覚はなく、血を吸うための血の特定の成分を嗅ぎ分ける感覚と、生き物の温度を感じる感覚があるだけらしい。マダニはそれらをグシ^Aしてターゲットとなる動物の上に落下し、触覚を使って毛をかき分け、血を吸うという行為を達成するのだ。

動物に限らず、異なる身体を持っているということは、その身体固有の道具や環境との付き合い方が生まれ、コミュニケーション方法が生まれ、他者との付き合い方が生まれるということだ。つまり、障害のある人はそれぞれに固有の文化を持っていると考えられる。

たとえば、何かをするにも自分が含まれていない社会を自分に引き寄せることから始めることや、周りの常識が自分とは違うことなど、障害のある人全体が共有する「障害者文化」があると言える。また、同じ種類の障害のある人のコミュニティのなかで共有される「あるある」も文化のひとつと言つてよいだろう。もちろん人は同時に複数の文化を持ちうるので、障害に由来する文化がどの程度その人の人格や生活に影響しているかは、人によって違いがあるだろう。

わたしは、障害のない人にも多様性はあり、それぞれの環世界を持っていると思う。ただ近代の社会においては、社会生活にシショウ^Aのない違いはないものとしておく方がツゴウ^Aが良いので、そのように思わされてきたのではないだろうか。

違いの振り幅^Bで考えれば、障害のある人は、ない人と大きく異なるとは言えるだろう。ただ、障害のある人の環世界も、障害のみからつくられるわけではない。よくある誤解に「目が見えない人は耳が良い」というのがあるが、それはすべての目が見えない人に当てはまることではない。確かに人間はひとつの感覚を失うと、全体の感覚の X が多かれ少なかれ行われると言われるが、周りにいる中途失明の友人のなかには、聴覚に関してはそれほど変わっていないという人も多い。(中略)

わたしはさまざまな障害のある人と接してきたなかで、人間に与えられた感覚の Y は同じで、

障害の有無によって傾向はあるものの、その配分が一人ひとり異なるというだけの話なのではないかと感じるようになった。たとえば障害に当てはまるものがなくても、方向感覚は圧倒的に欠けているが、時間の感覚は人より強く持っているという人がいるように。

つまり、それくらい一人ひとり異なる環世界を、たとえば「目隠し」や「車椅子」^{II}で体験しようとすることは、日常生活における機能的な側面だけを取りだしてわかつたつもりになるだけなのではないだろうか。それは、一人ひとりが持つ豊かな人生や経験とともに受容されなければ、単に能力の欠如で障害のある人を見る、医学モデル的なアプローチに陥ってしまう。その一瞬の体験では機能が「ない」ことが強調されるが、障害のある人はそのこととどう付き合っていくかの過程も含めて経験しているのだ。

あるいは、「暗闇を歩けてすごい」など、障害のある人を深く知ろうとせずに一方的な感動の対象として消費する「感動ポルノ」^{III}を生み出す危険性もある。これまで映画やドラマ、ホウドウなどで行われてきたことだが、障害のある人が超人的な能力を持っているように描いたり、困難を克服する姿ばかりが強調されたりといったものだ。そのようなことが行われてきたのは、障害のある人の現実よりも、障害のない人が伝えたい物語にとつてツゴウ^Aの長い描写が優先されてきたからだ。それは、障害のある人との距離を縮めるどころか、不必要な期待や先入観を障害のない人に持たせ、その姿に沿わない障害のある人をさらに排除するという弊害を生んできた。

アメリカの障害のある人たちのなかでも、障害を疑似体験することはしばしば批判されてきた。なぜなら、障害について語るうえで、身体あるいは感覚などの特性だけでひと括りには決してできない、障害のある人によって生きた経験 (lived experience) を当事者が語ることが大切だと考えられているからだ。それには、一人の人が障害のある身体を持つことにより社会のなかで受ける差別、障壁を乗り越えるために日々行っている工夫、障害があるからこそつくり出せた他者との関係性など、さまざまな個別の経験が含まれている。

生きた経験の観点から考えると、障害は疑似体験できるものではないことがわかる。そして、障害のない人たちが障害を悲劇として消費することに慣れ過ぎてしまっているのは、社会全体として障害のある人の生きた経験の多様性に目を向けてこなかったことが原因ではないかと思う。

(田中みゆき「疑似体験と生きた経験」一部省略・表記改変)

- 注 1 障害のない人を感動させるために、障害のある人を消費の対象とするコンテンツを指す。
2 ある体験を後から「生きた」ものとして反響的に捉えることによつて、そこに意味を見出すことができるということを表す概念。

問一 ―線部(ア～エ)と同じ漢字を用いるものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|
| 1 | ア | ① コツクベンレイ。
② 桃のセツクを祝う。
③ 四輪グドウシャ。
④ クオンの昔。 | 2 | イ | ① ショウマッセツ。
② シジリツが低迷する。
③ シモン会議。
④ 答えをシサする。 |
|---|---|---|---|---|--|

- 3 ウ ① トシンに引越す。
② ゼントヨウヨウ。
③ トロウに終わる。
④ 海外にトコウする。
- 4 エ ① ホウフクゼットウ。
② ドウホウに呼びかける。
③ ホウイ磁石。
④ インガオウホウ。

問二 — 線部 (A・B) の語句の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 5 A ① 直接的な感覚に訴えかけること ② あるものを別のことにたとえること
③ 隠れた主題をほのめかすこと ④ 批判のために素材を利用すること
- 6 B ① 事象の比較の基準 ② 出来事に対する温度差
③ ある動きの指標 ④ 物事の変動の度合い

問三 — 線部 I 「障害のある人はそれぞれに固有の文化を持っている」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 7 ① 「障害者文化」が及ぼす影響の有無によって、各自の「環世界」が決定するという。こと。
② 障害のある人はない人と異なり、生活を構築するほどの多様な経験を持つということ。
③ 異なる身体が持つ感覚に応じて、それぞれの生活や対人環境が構築されるということ。
④ それぞれの身体が持つ感覚に従うことで、「環世界」がより文化的になるということ。

問四 (X・Y) に入る語を、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 8 X ① 再取得 ② 再強化 ③ 再解釈 ④ 再編成
- 9 Y ① 認識 ② 総量 ③ 性能 ④ 余地

問五 — 線部 II 「椅子」と読み方の音・訓の組み合わせが同じ語を、次の中から一つ選びなさい。

- 10 ① 型紙 ② 格上 ③ 挿絵 ④ 凹凸

問六 — 線部 III 「障害を疑似体験することはしばしば批判されてきた」の理由として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 11 ① 障害を部分的に体験しても、当事者固有の経験の全体を理解することはできないから。
② 障害を疑似体験できるというおごりこそが、障害に対する差別を生みだしてきたから。
③ 障害の細部の感覚が発信されることで、当事者のプライバシーが守られなくなるから。
④ 機能性や効率性を第一とする社会では、障害の体験が生かされることはないから。

問七 問題文の内容に合致するものを、次の中から二つ選びなさい。

- 12 ① 生きられた経験には、当事者も感知しえない複雑で個別な経験が含まれている。
13 ② 筆者は、障害の有無にかかわらず一人一人にそれぞれ固有の世界があると考えている。
③ 「感動ポルノ」と呼ばれる物語は、障害のある人に対する先入観を生む一因となった。
④ 生きられた経験の多様さに気づくため、障害のない人も車椅子を体験することが必要だ。
⑤ 筆者は「障害者文化」について、障害のない人が壊してはいけないと考えている。
⑥ 機能的な側面ばかり見ていた結果、近代の社会は成員全てに生きづらい社会となった。

〔II〕 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。 14 1 26 の解答は解答欄にマークしなさい。

〈私〉は〈私〉を離れることができない。これは、およそすべての〈私〉に組み込まれたデフォルト初期設定である。しかも、〈私〉は〈私〉を選ぶことができず、キャラクターを変更することは絶対に不可能。生まれた後で他の〈私〉に乗り移ることはできない。車のように〈私〉を乗り換えられたら、どんなに楽だろう。でも、〈私〉はこの〈私〉を生きるしかない。しかし、そもそも〈私〉はどんな存在なのだろうか。 a

〈私〉が完全無欠の存在だったら、この初期設定をポジティブに捉えることもできるにちがいない。容姿もよし。勉強もできる。運動神経もよい。加えて、他人にやさしく、友達も多い。〈私〉が思い描く理想の〈私〉として生きられるなら、生まれ変わってもこの〈私〉としてもう一度生きたい、と、そう思えるだろう。この場合、生をまるごと肯定できそうである。 b

だが、ほとんどの場合、〈私〉には微妙なところや直したいところがある。たとえば、それは、ケイハク、嫉妬、スタイルの悪さ、意地悪、自己欺瞞、憎しみ、意志の弱さ、運動音痴、猜疑心、悪意、泣き虫、顔の大きさなどである。最も問題なのは、これらのネガティブな要素が〈私〉の思い通りにはならない、という点である。〈私〉が自分の嫌なところを自由に直せるなら、ネガティブなものを抱えるのは大したことはない。一度、白紙に戻して、〈私〉を新しく描けばよいのである。 c

現実はずいぶん違う。〈私〉はネガティブなものを自由にコントロールできないし、これまで積み重ねてきたことを白紙にはできない。狂いそうなほど嫉妬を感じて、相手に攻撃性を向けたという事実は動かないし、モデルを目指して足を長くすることもできない。いつまでたっても〈私〉は〈私〉。このことから逃れられない。〈私〉の欠点やオチンは、そこに確実にあるものとして、どこまでも付きまといてくる。 d

〈私〉とは何だろうか。〈私〉は、生まれてからずっと、さまざまな体験を取りまとめる中心としてクンリンしている。いつも、主語は〈私〉なのだ。にもかかわらず、いやだからこそ、〈私〉を十分に表現するのは、それほど簡単な作業ではない。〈私〉は〈私〉をよく分かっていると思うなら、試しに「私について」というタイトルで自己エッセイを書いてみるといい。原稿用紙三十四枚書けたら、今度はそれを誰かに読んでもらい、コメントをもらおう。すると、自分では気がつかなかった〈私〉の姿が現れてくるはずである。

私の見るところ、エッセイの中では、多分、最も難しい課題の一つである。詳細な自己紹介をしても、それは切り取られた断片でしかない。〈私〉を象徴するエピソードを書いてみても、友人の意見を書いてみても、〈私〉の全体には決して辿り着かない。ネガティブなものとポジティブなものをすべてラベリングしても、それらの要素の組み合わせでは、〈私〉の核心が表現されていない。それはもしかしたら、自己エッセイの中で書かれている〈私〉から、それを書いている〈私〉が取り残されているからなのかもしれない。

ところで、現実世界での〈私〉は複数の顔を持つだろう。これは、〈私〉の存在を多様な観点で切り取ることができる、ということだけを意味するのではない。周囲の人びとや環境や気分によって、〈私〉は〈私〉を調整しているのである。たとえば、職場と家庭で態度が異なる。友人といるときには、砕け

た口調になる。〈私〉のありようは、その場面場面で、少しずつ違っているのである。

平野啓一郎の概念を使えば、〈私〉の内実は中心が存在しない「分人」の束だ、ということになる。それは「自分で勝手に生み出す人格ではなく、常に、環境や対人関係の中で形成される」ものであり、「そのスイッチングは、中心の司令塔が意識的に行っているのではなく、相手次第でオートマチックになされている」。分割不可能な一つの人格を中心にするのではなく、(固定的な中心を持たない)複数の人格の緩やかなネットワークとして自分をイメージするのである。

サイバースペースに目を移せば、〈私〉はもつと自由に変容している、と言えるだろう。SNSやメ^{注1}タバー^{注2}スには、さまざまなプロフィールの〈私〉が存在する。特定のアカウントやア^{注2}バターを主人公にすれば、いつもの〈私〉とは異なる〈私〉を生きたことだつてできそう。しかし、一つ注意すべきは、このことが「分人」のようにオートマチックになされているとは限らない、ということである。というのも、それが「X」なデザインの場合もあるからだ。

さて、〈私〉を十全に表現するのが難しいのは、〈私〉が分人や自己デザインの新しい可能性につねに開かれている、ということに一因があるのかもしれない。では、テクノロジーの進展とともに人間の「Y」は抜本的に変わり、〈私〉は〈私〉を離れることができるようになるのだろうか。どうにも変えようのない〈私〉の存在に悩むのは、昔の出来事になりつつあり、いまは〈私〉を自由にデザインすることで、複数の〈私〉を自在に行き来できるのだろうか。そして、それらの〈私〉を自分の中でうまく共存させて、〈私〉は〈私〉にいつくりきえている、と言えるのか。

ところが、サイバースペースに接続されることで、むしろ〈私〉の存在は不明瞭になってきているようにも見える。コントロールしきれない情報や関係性がやたらと広がり、それを取りまとめる〈私〉がいなくなっているからだ。SNSでの〈私〉と現実世界での〈私〉があまりに乖^B離^リしてしまえば、〈私〉は〈私〉が分からなくなるだろう。

(岩内章太郎『〈私〉を取り戻す哲学』一部省略・表記改変)

注 1 インターネット上の仮想空間のこと。 2 仮想空間上で、自分の分身として使うキャラクター。

問一 — 線部(A・E)と同じ漢字を用いるものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | |
|--|--|
| <div>14 ア</div> <div>① 犯人がジ^レハクする。
② ハ^クアイ主義。
③ ガ^ハクから習^フう。
④ ハ^クヒョウを踏^ムむ。</div> | <div>15 イ</div> <div>① オ^メイを返上する。
② ケ^ンオを抱^ク。
③ 寺のオ^ショウ。
④ 後々までオ^レを引^ク。</div> |
| <div>16 ウ</div> <div>① ク^ンプウの五月。
② 灘^難ク^ンレン。
③ ク^ンショウを与^スえる。
④ 聖人ク^ンシ。</div> | <div>17 エ</div> <div>① ユウ^レツを襲^ウう。
② レ^ッカのごとく怒^ルる。
③ 西^欧レ^ッキョウ。
④ 風船がハ^レツする。</div> |

問二 — 線部(A・B)の語句の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | |
|--|--|
| <div>18 A</div> <div>① 依存できないと感じる気持ち
③ 信頼できないと感じる気持ち</div> | <div>② 物事を軽く捉えてしまう気持ち
④ 物事を悪く捉えてしまう気持ち</div> |
| <div>19 B</div> <div>① 遠ざかること
③ 曖昧になること</div> | <div>② 反発しあうこと
④ 矛盾すること</div> |

問三 — 線部I「存」の部首として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- | |
|--|
| <div>20</div> <div>① 一
② 子
③ イ
④ ノ</div> |
|--|

問四 次の文章は「a」「d」のいずれかの後に続く段落である。最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

もちろん、ポジティブな要素もあるだろう。人よりもちよつと勉強ができたり、足が速かったりする。友人の言葉と誠実に向き合ったり、困っている人に手を差し伸べたりする。自分のことを心底嫌いな人はいるかもしれないが、周りの人から見たら、ネガティブだらけの人はそうそう見つからない。誰でも何らかのとりえがある。

- | |
|--|
| <div>21</div> <div>① a
② b
③ c
④ d</div> |
|--|

問五 — 線部II「〈私〉を十分に表現するのは、それほど簡単な作業ではない」のはなぜか、その理由として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

- | |
|--|
| <div>22</div> <div>① 〈私〉が〈私〉を理解しているつもりでも、本当には理解していないから。
② 〈私〉が多くの体験をしても、それを取りまとめる〈私〉がないから。
③ 〈私〉が友人たちの意見をまとめても、それが〈私〉の全体ではないから。
④ 〈私〉が詳細な自己紹介をしても、それは〈私〉の一部分でしかないから。</div> |
|--|

問六 「(X・Y)」に入る語を、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | |
|--|--|
| <div>23 X</div> <div>① 意図的
② 普遍的
③ 自動的
④ 組織的</div> | <div>24 Y</div> <div>① 対人関係
② 存在価値
③ 初期設定
④ 資質能力</div> |
|--|--|

問七 問題文の内容に合致するものを、次の中から二つ選びなさい。

- | | |
|---|---|
| <div>25</div> <div>① テクノロジーの進化によって、いつか〈私〉は〈私〉を選べるようになる。</div> | <div>26</div> <div>② 現実世界での〈私〉は複数の顔を持ち、場面にあわせて使い分けている。
③ 〈私〉の核心が表現できないため、〈私〉は〈私〉を選ぶことができない。
④ 〈私〉のネガティブなものは、努力次第でコントロールすることができる。
⑤ 仮想空間上での〈私〉は、多数の〈私〉を常に自動的に切り替えている。
⑥ 仮想空間上では、〈私〉を集約する〈私〉が明確に存在するとは言えない。</div> |
|---|---|

[III]

次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。27 36 の解答は解答欄にマークしなさい。

大納言なりける人、日ころ心をつくされける女房のもとにおはして、物がたりなどせられるが、世におもふやうならで、あけゆく空もなほ心もとなかりければ、あからさまのやうにて、たちいでて隨身に心をあはせて、「今しばしありて、『まことや、こよひは内裏の番にて候ふものを、もしおぼしめしわすれてや。』とをとなべ。」とをしへてうちへ入りぬ。そのままにしばしありて、こちなげに隨身いさめ申しければ、「さることあり。今夜はげに心おくれしにけり。」とて、とりあへずいそぎでんとせられるけしきを見て、この女房心えて、やがていとうらめしげなるに、をりふし、雨のはらはらとふりたりければ、

ふれや雨雲のかよひぢみえぬまで心そらなる人やとまると
いうなるけしきにて、わざとならずうちいでたりけるに、この大納言何かの事はなくて、その夜とまりにけり。後までもたえずおとづれられけるは、いとやさしくこそ。かく申すは後徳大寺左大臣ときこえし人の事とかや。

(『今物語』)

問一 線部(ア～ウ)の語句の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 27 ア ① 声高に ② 恐る恐る ③ それとなく ④ ぶしつけに
28 イ ① 次第に ② すぐに ③ しばらくして ④ いつの間にか
29 ウ ① しばらくすると ② 具合のよいことに
③ ちょうどその時 ④ 思いもかけず

問二 線部(A～C)の口語訳として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 30 A ① 徐々につまらなくなっていまい
② まったく期待したとおりにならず
③ どういうわけかいつもとは異なり
④ 世の中の人が思うほど簡単ではなく
31 B ① そうだった。今夜は本当にうつかりしていたことだ
② 思い出した。今夜はどうりでその気にならなかったわけだ
③ そうのことだ。今夜はとてもしやな予感がしていたのだ
④ 残念なことだ。今夜はとりわけ別れるのが心残りなことだ
32 C ① 落ち着いた様子でさりげなく部屋から出ていったので
② 趣のある様子で隠すことなく心情を吐露したので
③ 優美な様子で思いがけなく外に出てきたので
④ 奥ゆかしい様子で何気なく詠み出したので

問三 線部a～dのうち丁寧語を、次の中から一つ選びなさい。

- 33 ① a ② b ③ c ④ d

問四 線部Iの和歌の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 34 ① 降っている雨にことよせて、不実な男に対する愛情を詠んでいる。
② 現れた雲の通い路にことよせて、率直に男への恨みを詠んでいる。
③ 雨や雲の通い路を用いて、男を引き留めてくれる空模様への喜びを詠んでいる。
④ 眼前の光景を用いて、男が心変わりしてしまったことへの悲しみを詠んでいる。

問五 問題文の内容と合致するものを、次の中から一つ選びなさい。

- 35 ① 大納言に説得された隨身は、結局教えられたとおりにふるまった。
② 女房の愛情に感激した大納言は、内裏での仕事を放り出してしまった。
③ 女房は、大納言がわざとらしく隨身に会いに行つたことで計略に気づいた。
④ 大納言は、女房との夜がそのまま過ぎてしまうことをしれつたく感じていた。

問六 『今物語』と同じく鎌倉時代に成立した作品を、次の中から一つ選びなさい。

- 36 ① 大鏡 ② 大和物語 ③ 十六夜日記 ④ 野ざらし紀行

国語おわり